

才

理	心	
數冊	記	號番
六	一	三
學校	縣中	滋

五号

西洋哲學講義

井上哲次郎講述

卷四

月	種	種	前番號
日	入	號別	別
月	130		
日	745		
	Vol 4		

井上哲次郎講述

卷四

西洋哲學講義

明治十六年四月廿七日版權免許

彦報
立中學
校印章

西洋哲學講義目次

卷之四

第十二回

アリストートル氏ノ傳

第十三回

アリストートル氏ノ哲學ノ方法

第十四回

アリストートル氏ノ論法并ニ形而上學

アリストートル氏ノ倫理學

西洋哲學講義
目次

西洋哲學講義卷之四
 第十回
 第十一回
 第十二回
 第十三回
 第十四回
 第十五回
 第十六回
 第十七回
 第十八回
 第十九回
 第二十回
 第二十一回
 第二十二回
 第二十三回
 第二十四回
 第二十五回
 第二十六回
 第二十七回
 第二十八回
 第二十九回
 第三十回
 第三十一回
 第三十二回
 第三十三回
 第三十四回
 第三十五回
 第三十六回
 第三十七回
 第三十八回
 第三十九回
 第四十回
 第四十一回
 第四十二回
 第四十三回
 第四十四回
 第四十五回
 第四十六回
 第四十七回
 第四十八回
 第四十九回
 第五十回
 第五十一回
 第五十二回
 第五十三回
 第五十四回
 第五十五回
 第五十六回
 第五十七回
 第五十八回
 第五十九回
 第六十回
 第六十一回
 第六十二回
 第六十三回
 第六十四回
 第六十五回
 第六十六回
 第六十七回
 第六十八回
 第六十九回
 第七十回
 第七十一回
 第七十二回
 第七十三回
 第七十四回
 第七十五回
 第七十六回
 第七十七回
 第七十八回
 第七十九回
 第八十回
 第八十一回
 第八十二回
 第八十三回
 第八十四回
 第八十五回
 第八十六回
 第八十七回
 第八十八回
 第八十九回
 第九十回
 第九十一回
 第九十二回
 第九十三回
 第九十四回
 第九十五回
 第九十六回
 第九十七回
 第九十八回
 第九十九回
 第一百回

西洋哲學講義卷之四

井上哲次郎講述

第十二回 アリストートル氏ノ傳

第七十一節 アリストートル氏ハ紀元前三百

八十五年ヲ以テスレノスタギリヤ府ニ生ル

父ヲニコマコスト云ヒ母ヲメスチスト云フニ

コマコス氏ハ醫ヲ以テ業トシマセ下シノ王ア

ミンタス第二世ノ親友ナリキト云ウ其他ノ事

ハ詳ナラズアリストートル氏ハ甫々十七歳ノ

ハ

ハ

時、其父ヲ失ヒ、始メテ戸主トナリ、許多ノ家財ヲ有スル下ヲ得タリ、凡ソ年少ノ者、此ノ如キ機會ニ逢フキハ、必ズ遊蕩ニ流レ易ク、非常ノ戒心アルニアラザルヨリハ、其身ヲ勒制スル能ハス、實ニ是レ少年危難ノ秋ト謂フベシ、是ヲ以テ或ハ云フ、氏モ亦一時遊蕩ニ流レテ、生産ヲ失ヒ、貧困ニ迫リ、藥ヲ賣リテ日ヲ送リシト、是レ恐クハ訛傳ナラン、先輩モ亦往々其非ヲ言ヘリ、總テ有名ノ人ニ就テハ、種々ノ奇話ヲ生ズル者ナレバ、更ニ怪ムニ足ラザルナリ、

アリストトトル氏ハ年少ノ時ヨリ大志ヲ抱キ、事ニ臨ミ機ニ觸レテ、感奮激發、將ニ大ニ爲ス所アラントス、是ノ時ニ當リテ、アゼンス府ハ文華最モ盛ニシテ、學問技藝等ニ於テハ實ニ中心ノ地位ヲ占メ、加フルニ、天下ノ師宗タルプレート氏コトニアリテ、徒弟ヲ集メ、哲學ヲ教授シ、辨論矯々、以テ一代ノ耳目ヲ賦カス、是ヲ以テアリストトトル氏ハ其從來ノ宿志ヲ遂ゲンシト欲シ、故山ヲ辭シテ、アゼンス府ニ至ル、然ルニ會プレートト氏コトニアラザルヲ以テ風雨ニ拘ハラズ、寒

暑ニ論ナク、鑽研磨礪、以テ前途ノ預備ヲナシ、プレト氏ノ歸リ來ルヲ俟ツ、コレヨリ三年ノ後始メテプレト氏ニ就イテ親シク問學スルヲ得、コレヨリ日ニ月ニ其道ニ上達シ、且ツ又智識ノ増進スルニ隨ヒテ、當時有名ノ諸學士ト相交ハリ、往々議論ヲ上下スルヲ以テ、學植ノ深淺才ノツカラ蔽フベカラズ、其名遂ニ大ニ藝林ニ聞フ、
初メアリストール氏ノアゼンス府ニ來ルヤ未熟ノ青年書生ニテ、嘗ニ經驗ナキノミナラズ、

又彼ノ故山ノ陋習ヲ帶ブルヲ以テ、往々人ニ輕侮セララル、トアリキ、然ルニ今ハ既ニ經驗ヲ積ミ、又既ニ故山ノ陋習ヲ脱シ、銳敏ノ才ト淹博ノ學トヲ兼備シタル上ニ、滔々タル懸河ノ辨ヲ振フヲ以テ、固ヨリ初ノ如ク人ニ輕侮セララル、トナク、大ニ進歩ノ便ヲ得テ、益、其道ニ進ミ、プレト氏ノ説ト雖モ、服スル能ハザルトアレバ、痛ク攻撃セリ、然レモアリストール氏ハ決シテプレト氏ヲ敵視スルヲ欲セシニアラザルナリ、眞理ノ爲メニ擊攻セザルヲ得ザルトアルカ故

ニ然カセシノミ、故ニ其倫理學ニ親友ノ說ヲ駁
スルノ止ムヲ得ザルニ出ヅルヲ論ジテ、眞理ノ
爲メニ肉ヲ殺ギ血ヲ濺グハ吾輩哲學士ノ職分
ナリ故ニ親友モ眞理モ共ニ愛セザルニ非ズト
雖モ眞理ヲ愛スルノ親友ヲ愛スルヨリ甚シキ
ナリト云ヘリ、然レバアリストートル氏ノプレ
ート氏ヲ駁撃セシハ、實ニ止ムヲ得ザルニ出テ
シコナリ、
第七十二節 アリストートル氏ノアゼンス府
ニ畱リシハ、凡ソ二十年ナリ、後ノ十七年中初

メハプレートト氏ヲ師トシ、終リニハ之ヲ友トシ、
遂ニプレートト氏ト對立スルニ至レリ、蓋シアリ
ストートル氏ハ始メヨリプレートト氏ト對立ス
ルノ意ナシト雖モ、徒弟ノ來リ聚マル者甚ク多
キヲ以テ勢オノヅカラプレートト氏ト對立スル
ニ至レリ、是ニ於テカ始メテ徒弟ノ爲メニ哲學
ヲ演述スルコトヲ始メシニ、傍聽人ノ中ニアタ
ルネオス國ノヘルミヤス王アリシガ、翌年プレ
ート氏死シテ後アリストートル氏ハプレートト
氏ノ徒弟タルゼノクラチース氏ト共ニヘルミ

ヤス王ノ招キニ應ジ、アタールネオス國ニ至ル、
蓋シヘルミヤス王新ニ憲法ヲ編マント欲シテ
二人ノ哲學士ヲ招ク者ナリ、然レ厄未ダ幾バク
ナラズシテアタールネオス國亡ビテ波爾斯國
ノ版圖ニ歸セシカバ、二人ノ哲學士ハヘルミヤ
ス王ノ養女ナルミシヤス氏ヲ携テミチリオン
ニ走ル、後チアリストール氏ヘルミヤス王ノ
死ヲ哀ミ、且ツ又ピシヤス氏ノ孤獨ナルヲ憐ミ、
遂ニピシヤス氏ヲ以テ其妻トセリ、一説ニピシ
ヤス氏ハヘルミヤス王ノ妾タリヌト云フヲ以

テ頗ルアリストール氏ヲ怪ム者アレ氏是レ
恐クハ訛傳ナラン、ピシヤス氏ハ一女ヲ産ミテ
後チ死セリト云ス、
第七十三節 アリストール氏ノミチリオン
ニアル、未ダ久シカラズシテ、マセドンノ王ヲ
プヨリ其子歷山大ノ師タランヲ望マレタリ、
此レニ由リテ之ヲ觀レバ、アリストール氏ノ
名既ニアゼンス府ニ轟キタルナルベシ、却說、歷
山大ハ是ノ時歳僅カニ十四年ナリ、是レ性質ノ
最モ偏向シ易キ時ナレバ、アリストール氏頗

ル誘掖ニ盡カセシト見エ、歷山大嘗テ謂ヘルア
リ、曰ク、我が父ハ我レニ生命ヲ與ヘ、我が師ハ我
ガ生命ヲシテ高貴ナラシム、故ニ我レ我が師ヲ
敬スルコト我が父ニ異ナラズト、是亦名言ナリ、蓋
シアリストール氏ノマセドニニアリシハ、凡
ソ七年ナリ、然レ歴山大ヲ教ヘシハ、始メノ四
年ニシテ、其後ハ歷山大攝政トナリシヲ以テ師
ノ職ヲ解キ、唯、友人ヲ以テ相交ハリ、未ダ曾テ相
逆ハザリキ、又プリニー氏ニ據レバ、歴山大カツ
テアリストール氏ニ莫大ノ金ヲ與ヘテ莫大

ノ書庫ヲ作ラシメ、又アリストール氏ノ爲メ
ニ若干ノ人夫ヲシテ、徧ク禽獸蟲魚草木ノ類ヲ
搜索セシメタルヲ以テアリストール氏ハ之
レガ爲メニ非常ノ便益ヲ得タリ、然レ是レ信
ズベカラザルプリニー氏ノ説ナレバ容易ニ信
ズベカラズ、コレヨリ歴山大ハ征討ヲ企テ南ハ
埃及東ハ印度ニ至ルマテ、到ル處武威ヲ示サマ
ルハナシ、一説ニアリストール氏モコノ役ニ
隨行セシト云フハ、蓋シ無根ノ妄言ナリ、
第七十四節 アリストール氏ハアゼンス府

ヲ辭シテヨリ十二年ノ後再ビ同處ニ歸リ來レ
リ、實ニ紀元前三百三十五年ナリ、是ノ時ゼノク
ラチース氏ハアリストートル氏ニ先チテ舊來
ノ學校ヲ占有シタルヲ以テ、アリストートル氏
ハ別ニ體操場ヲ以テ學校トス、抑、コノ體操場ハ
本トビジスツラトス氏ノ建築ニ始マリ、ベリク
リトス氏ノ修飾ニ成ル者ニシテ、其結構ノ壯麗
ナル、殆ンド言ヒ盡スベカラザルホドノモノナ
リキト云フ、アリストートル氏コ、ニアリテ書
ヲ著ハシ、徒弟ヲ教フル、凡ソ十有三年、物換ハ

リ星移リテ、アゼンス府モ今ハ昔ト同ジカラズ、
マセドニノ命ヲ奉ゼザル者日一日ヨリ多キヲ
以テ、アリストートル氏ノ身最モ危難ナリ、何ン
トカレバ、氏ハアゼンス府ヨリ之ヲ見レバ、外國
人ナリ、哲學士ナリ、マセドニノ友人ナリ、是ヲ以
テ政黨ノ巨魁ハ三様ニ氏ヲ嫌忌スルガ故ナリ、
氏固ヨリ罪ナシト雖モ、遂ニ宗教ヲ害スト云フ
口實ヲ以テ罪セラレタリ、小人ノ賢人ヲ陷ル、
下、古今ノ差ナク、東西ノ別ナシ、後生豈獨リ氏ノ
爲メニ之ヲ歎ゼンヤ、氏ハ是ニ於テカユ一ビヤ

ノチヤルシスニ退隱シ、書ヲ著ハシテ無根ノ妄
言ヲ駁シ、自己ノ冤罪ヲ論ゼリ、然レモ其身ノ虚
弱ナルニ、孜孜勉強シテ止マザルヲ以テ、次第ニ
衰弱スルニ至レリ、コノ時アゼンス府民ハ氏ノ
法庭ニ出デザルヲ怒リ、百方其名譽ヲ降シ、將ニ
死罪ヲ以テ之ヲ處セントス、然ルニ氏ハ紀元前
三百二十二年ヲ以テ病歿ス、享年六十三歳ナリ、
第七十五節 アリストートル氏ハ他ノ思想家
ト同シク強壯ノ人ニアラス、身短少シテ肥滿ナ
ラス、目小ニシテ唇奇ナリ、談話ノ間論法ニ違ハ

ス、往々冷語ヲ交ヘ、人ノ心ニ逆ヘリ、然レモ人ヲ
愛スルノ情ト眞理ヲ好ムノ心トハ、其言ヲ玩味
シテ知ルベキナリ、或ル時人アリテ氏ニ氏ヲ讒
毀セシモノアリト告ゲシニ、余ノ居ラザル氏ナ
ラバ余ヲ撃ツモ亦可ナリト答ヘタリ、又平生多
クノ友人ヲ有スル者ハ友人ヲ有セザルナリト
云ヒ、又朋友ハ二體ニシテ一心ナル者ナリト云
ヘリ、又或ル人嘗テ友人ニ交ハルノ法ヲ問ヒシ
ニ、我方彼ヲシテ我レニ爲サシメント欲スルガ
如クセヨト答ヘタリ、又嘗テ人アリ學者ト不學

者トハ幾分ノ差アリヤト問ヒシニ、活人ト死人
トノ差ニ異ナラズト云ヒ、速ニ老ユル者ハ何ゾ
ト問ヒシニ、感恩ノ情ト云ヘリ、皆千古ノ確言ナ
リ、
傳ヘ言フ所ニ據レバ、アリストトル氏ハ夜々
寢牀ニ就ク、氏手ニ一ノ青銅球ヲ握リ、其墜ツル
響キニ因リテ睡眠ヲ妨ゲリ、又嘗テ病ニ嬰リシ
氏醫者ニ向ヒテ曰ク、我レヲ遇スルニ、牛馬ヲ驅
リ工人ヲ使フガ如クスル勿レ、唯、病ノ原因ヲ告
ゲヨ、然ラバ必ズ汝ニ遵ハント、コレニテ略、氏ノ

平生ヲ知ルニ足ルナリ、女ヒシヤス子ニコマコ
ス養子ニカノル妾ヘル。ヒリスハ皆遺言ニ因リ
テ十分ニ供給セラレ、又奴隸ノ如キハ或ハ放免
セラレ、或ハ褒賞セラレ、此ニ由テアリストト
ル氏ノ家族ニ對シテ懇切ナリシヲ知ルベキナ
リ、又氏ハアラユル學術ニ通ゼザルナキヲ以テ、
其著ハス所極メテ浩瀚ニシテ、政理學アリ、倫理
學アリ、修辭學アリ、論法アリ、形而上學アリ、詩學
アリ、物理學アリ、天文學アリ、解剖學アリ、心理學
アリ、集メテ之ヲ合スレバ、一部ノ學術叢書ヲナ

スナリ、ハミルトン氏アリストートル氏ヲ賛揚シテ曰ク、如何ナル學術ト雖モ、アリストートル氏ノ痕跡アラザルハナシ、又氏ノ思想ハ間接若クハ直接ニ後生ノ思想家ヲ制シタリト、眞ナル哉アリストートル氏ノ泰西ニ功アルヲ、猶ホ孔子ノ和漢ニ功アルガゴトキナリ、

第十三回

アリストートル氏ノ哲學ノ方法

第七十六節、既ニ前回ニモ陳述シタルガ如ク、プレート氏ハ不變性ノモノ即チ普通ノ概念ナ

ケレバ科學ハ構造スベカラズト思惟セシガ、抑氏ガイハユル普通ノ概念トハ何ヲ謂フカ、又如何様ニシテ普通ノ概念ヲ得ベキカ、是等ノ問題ハ實ニ重要ナルモノナリ、何トナレバ、古代科學モ近世科學モ皆普通ノ概念ヲ以テ基址トナシ、而シテ其間大ニ相異ナルモノアレバナリ、思フニ、近世科學ノ古代科學ニ異ナルハ其普通ノ概念ヲ得ルノ法并ニ之ヲ證明スルノ法ヲ異ニスルニ起因スルナリ、抑近世科學ニアリテハ總テ詳細精密ノ檢視ヲ經テ得タル所ノ總說(ゼネラリ

西洋哲學講義 卷之四
チーヌヲ普通ノ概念トシ、間、日常經驗ノ外ニ出
ヅルモノアルガ如シト雖モ、未ダ曾テ思惟スル
所ニ合當セザルモノハアラズ、之ヲ客觀法ト稱
ス、即チ事物ノ關係ヲ客觀上ヨリ究察スルノ謂
ナリ、然ルニ古代科學ニアリテハ專ラ主觀上ニ
就テ徵驗ヲ求メ、近世ノ如ク實物ニ就テ物理ヲ
證明スルノ法ヲ用ヒズ、之ヲ主觀法ト稱ス、即チ
觀念ノ關係ヲ主觀上ヨリ究察スルノ謂ナリ、蓋
シ古來哲學家ノ究察スル方法ハ大抵此二種ニ
外ナラズ、而シテ初メテ能ク之ヲ甄別セシ者ハ

カシト氏ナル歟、然レ氏此二法ヤ實ニ希臘ノ哲
學家ニ胚胎ス、即チプレート氏ハ主トシテ主觀
法ヲ用ヒ、アリストートル氏ハ其師ニ反シテ主
トシテ客觀法ヲ用ヒタリ、
凡ソ哲學ヲ講ズルニハ客觀法ノミヲ用フベカ
ラス、又主觀法ノミヲ用フベカラス、但、此二法ヲ
併用スベキナリ、若シプレート氏ノ如ク主觀法
ノミヲ用フルキハ謬誤ナキヲ保シ難シ、此ノ時
ニ當テアリストートル氏ガ客觀法ヲ用ヒシハ
實ニ哲學上ノ大ナル進歩ト謂ハザルヲ得ズ、固

ヨリ主觀法ヲ斥クルハ非ナリト雖モ、後人ヲシテ客觀法ノ尚ブベキヲ知ラシメタルハ、實ニアリストールトル氏ノ功ナレバ吾人ハ氏ヲ以テ歸納哲學ノ元祖トスルモ可ナリ、中世ノ後ベトコ
ン氏歸納哲學ヲ唱フト雖モ、其實アリストールトル氏ニ本クモノニテ、アリストールトル氏ニ超ユル能ハザルナリ、然レモアリストールトル氏ノ客觀法ハ一ノ缺點ナキニアラズ、是レベトコニ氏モ俱ニ免レザル所ナリ、何ゾヤ、徵驗法（ウリスケ
ーシヨシ）ヲ充分ニ重要視セザルハ是レナリ、蓋

シ古來ノ學者ハ隱然徵驗法ヲ以テ觀察、歸納、并ニ演繹ニ伴隨スルモノトスレモ之ヲ以テ極メテ必要ナルモノトセズ、又總テ推論ノ錯誤ハ之ヲ用ヒザルニ起因スルヲ知ラザルヲ以テ唯、アリストールトルベトコンニ氏ガ何故ニ甚シキ錯誤ヲナセシカト惜嘆スルノミニテ、二氏客觀法ヲ用フト雖モ、徵驗法ノ極メテ必要ナルヲ知ラザルヲ以テ、甚シキ錯誤ヲナセシヲ知ラザルナリ、

第七十七節 却説プレート氏ハ感覺ヲ以テ憑

信スベカラザルモノトシ、直覺(インチユイシヨ
ン)スヲ以テ衆智識ノ基址トセリ、然ルニアリス
トール氏ハ感覺ヲ以テ之レガ基址トシ、感覺
ナケレバ思想ヲ生ズルコトハ能クスベカラズト
思惟シ、而シテ專ラ經驗ト歸納トヲ憑信セリ、是
レ他ナシ經驗ハ事實ヲ知ルノ法ニシテ、歸納ハ
普通ノ命題即チ理法ニ違スル路ナルヲ以テナ
リ、蓋シプレート氏ハ感覺ハ人ヲ欺クガ故ニ懐
疑スケプチシズルノ弊ヲ來タスナリトオモヒ
シガアリストール氏ハ感覺ヨリ起ル錯誤ハ

感覺ノ人ヲ欺クヨリ起ルニカラズシテ人ノ之
ヲ誤認スルヨリ起ル、故ニ感覺ヲ憑信スレバ多
ク錯誤ヲ來タスコトアリト雖モ、是レ決シテ感覺
ノ真相ナキガ爲メニテアラズ、實ニ吾人ハ感覺ニ
ヨリテ特殊ヨリテ知ヲ得、歸納ニヨリテ普通
ノ知ヲ知ルヲ得ル者ナリトシ、プレート氏ト同
シク科學ハ不變性ノモノナケレバ構造スベカ
ラズトス、然レプレート氏ノ如ク直ニ觀念ヲ
以テ不變性ノモノトセズ、但、經驗ニヨリテ得ベ
キモノトセリ、プレート氏ハ感覺ニ

第七十八節 アリストートル氏ハ嘗ニ感覺ニヨリテ得ル所ノ智識ヲ虚偽ナリトセザルノミナラズ、又直覺ニヨリテ得ル所ノ智識ヲ疑ヒ、觀念ハ理性ニヨリテ生ズル所、即チ實物ト實物ノ關係トヲ分離シテ得ル所トセリ、又氏ハ近世ノ心理家ト稍、同ジク智慧ハ先天ヨリ存スルモノニアラスシテ、漸次ニ發生シ、悟性ハ感覺上ノ材料ヨリ成リ、記憶ハ之ヲ保存スルヲ謂ヒ、記憶ヨリシテ區分(チズチンクシヨニス)ヲ生ジ、再三之ヲ反覆スルニヨリテ經驗ヲ生ジ、遂ニ歸納法ヲ

用ヒテ科學ヲ構造スルノ路ニ達スルヲ得ベシト思惟セリ、
プレートト氏ハ總テ智識ハ前生ニ屬スル觀念ノ再現ニ過ギズ、而シテ觀念ノ間ニハ論理的ノ關係(ロヂカル、コンネクシヨン)アルヲ以テ若シ一ノ觀念ヲ得レバソレニ由テ又他ノ觀念ヲ得ベキナリトセシガ、アリストートル氏ハ之ニ反シテ完全ナル智識ハ完全ナル經驗ニヨリテ成ルトシ、プレートト氏ノ如ク僅々ノ事實ヨリ直ニ普通命題ヲ抽出スルノ弊ヲ論ゼリ、

アリストール氏真理ニ達スルノ法ヲ論ジテ
曰ク、吾人ハ唯、論法ノミニ由テ真理ヲ求ムベカ
ラス、但、事實ニ就テ之ヲ求ムベシ、實ニ吾人ノ真
理ヲ求ムベキハ事實ニアリ、事實ハ真理ニ契合
スルモノナリト、是レ實ニ名言ト稱スベシ、然レ
凡此言ヲ誤解シテ唯、事實ノミニヨリテ真理ヲ
求ムベカラズ、真理ハ事實論法ノ二者即チ客觀
主觀ノ二法ヲ併用シテ始メテ達スルヲ得ルト、
既ニ第七十六節ニ論ジタルガ如シ、思フニ、世人
ハ論法ノ藩籬ヲ窺ハザルモノ多キヲ以テ論法

ニ徴スルノ必要ナルヲ説クモ、格別之ヲ贊揚セ
ザレバ、實物ニ徴シテ始メテ真理ニ達スベキト
ヲ語グルルハ、忽チ之ヲ然諾ス、然レ凡其實事實
ニ徴スルノ法ニテハ決シテ真理ニ達シ難シ、何
トナレバ、單ニ事實ヲ知ルノミニテハ、未ダ真理
ヲ得ルモノニアラス、苟モ真理ヲ得ント欲セバ、
事實ヲ知リタル後更ニ其事實上ニ就テ種々ノ
想考ヲナシ、演繹法ニヨリテ之ヲ實際ニ應用シ、
徵驗法ニヨリテ之ヲ確定シ、始メテ真理ニ達ス
ルヲ得、然レ凡之ヲナスハ即チ論法ヲ用フルナ

リ、論法ヲ捨テ、單ニ事實ニ徴ストイフノミニ
テハ、未ダ眞誠ニ哲學ノ方法ヲ得タリト稱スベ
カラズ、是ヲ以テアリストトル氏ハ論法ハ勿
論形而上學ヲモ兼ネテ講究セルナリ、
第七十九節　アリストトール氏ハプレト氏
ノ觀念論ヲ非トシテオモヘラク、觀念ハ主觀上
ニ於テハ其存在ヲ承認スベケレト、客觀上實在
スルモノトハスベカラズ、客觀上實在ストノ説
ハ詩家ノ慣用スル譬諭ノ類ノミ、若シ眞ニ觀念
ガ實體ヲ有スルモノナラバ、同一物ニシテ若干

ハ實體ヲ有スルモノアリト謂ハザルベカラズ
即チ同一物ヲ若干ノ異類中ニ列セザルヲ得ズ
例ヘバ、ソクラチーヌ氏ハソクラチーヌ氏ナル
觀念中ニモ、人ナル觀念中ニモ、動物ナル觀念中
ニモ、兩足獸ナル觀念中ニモ、哲學者、將校、政治家
ナル觀念中ニモ彙類スベキナリ、然レハ同一ノ
ソクラチーヌ氏ヲ種々ノ實體ヲ有スル者ノ如
ク見做スノ不都合ヲ生ズベシト、アリストト
ル氏又オモヘラク、觀念ハ理性ニヨリテ生ズル
所ニシテ全ク主觀的ノモノナリ、プレト氏ノ

思惟セル如ク客觀上實在スルモノニアラズ然
ルヲフレート氏ハ實物ノ觀念ハ實物ヲ離レテ
實體ヲ有スルモノトス、是レ徒ニ實體ノ數ヲ増
加スルニ過ギザルナリト、此ノ如キ說ヲ以テア
リストートル氏ハ觀念ノ實物ヲ離レテ實體ヲ
有セザルヲ確定シ、次デ箇々ノ物ノミ存在ス
ルヲ主張セリ、然ルニ個々ノ物ハ唯、感覺ニヨ
リテ知ルベキナリ、唯、感覺ニヨリテ知ルベキ
ハ、抽象的ノ觀念ハ如何様ニシテ得ルモノナル
カ、普通ノ觀念ハ何ニ由テ得來ルカ、コノ問題ハ

極メテ重要ナリト謂フベシ、何トナレバ、科學ハ
既ニ前ニモ言ヒシ如ク不變性ノモノ即チ普通
ノ概念ナケレバ構造スルヲ得ザレバナリ、然ル
ニアリストートル氏ハフレート氏ト同ジク科
學ハ普通ノ概念ヲ以テ基址トスルモノナレバ、
感覺ニヨリテ之ヲ構造スルハ能クスベカラザ
ルヲナリトス、然レモフレート氏ノ如ク前生ノ
ヲ回想シテ得ル所ノ觀念ヲ普通ノ概念トハ
セズシテ、感覺ニヨリテ特殊ノモノヲ覺知シ歸
納法ニヨリテ特殊中ヨリ普通ノ概念ヲ抽出ス

第十四回

アリストートル氏ノ論法并ニ形而上學ハ
第八十節「メタフェジック」即チ形而上學ト云フ
語ハアリストートル氏ガ自ラ用ヒシ語ニアラ
ズシテ、氏ノ書ヲ注解セシ者ノ用ヒシ所ナリ、蓋
シ形而上學ハプレート氏ノイハユル「メタイアレ
クチック」即チ辯證式ニシテアリストートル氏
ハ之ヲ第一哲學ト稱シ、物理學ヲ第二哲學ト稱
セリ、アリストートル氏又オモヘラク、科學ハ何

レモ一局部即チ特殊ノ有在「ビシグ」ヲ究察スル
モノニテ、有在全體ヲ稽查スルモノニアラズ、是
ヲ以テ諸學ノ外別ニ有在全體ヲ稽查スルヲ以
テ目的トスル所ノ一學科ナカルベカラズ、何ゾ
ヤ、是レ即チ第一哲學ナリ、第一哲學ハ有在全體
ヲ究察スルヲ以テ目的トシ、他ノ諸學ノ如ク特
殊ノ有在ヲ究察スルニ止マラザルナリト、乃チ
イハユル形而上學ハ有在全體ヲ講究スルノ學
ニシテ自ラ哲學ノ基本トモナルベキモノナル
ヲ知ルベキナリ、アリストートル氏又オモヘラ

久若シ唯、具象的ノ物ノミ存在スルコトナラバ、物
理學ヲ第一哲學ト稱スベケレド、具象的ノ物ノ
外ニ抽象的ノ有在即チ有在ノ本源アルナラバ、
物理學ノ外ニ一般哲學(ユニウエルサル、フェロソを
ト)トモ稱スベキモノアリテ之ヲ尋究スルヲ以
テ目的トセザルベカラズ、然ルニ有在ノ本源ハ
即チ神ナルヲ以テアリストトール氏ハ第一哲
學ヲ神學(セオロヂー)トモ名ケタリ、
第一哲學ト「オルガノン」書中ニ載スル所、即チ通
常アリストール氏ノ論法ト稱スル所ノモノ

トノ區別太ダ明瞭ナラズ、蓋シアリストトール
氏自ラモ此二學ノ區別ヲ確定セザリヌ、是レ氏
ノ形而上學ノ未ダ完全ナラザルヨリ起因スル
コトト謂ハザルヲ得ズ、然レ氏ガ此二學ヲ混同
シ、物ノ有在并ニ觀念論ヲ究察スルヲ論理的ノ
究察トシ、論理上ノコトヲ形而上學ニ於テ辯明ス
ル等ノコトヲ以テ之ヲ觀レバ、始メヨリ精密ニ此
二學ヲ區別セザリシモノト見ユ、

第八十一節、リユウキス氏曰ク、論法ト稱スル一
學科ヲ創設セシハアリストトール氏ナリト云

フハ世俗ノ謬見ナリト蓋シアリストートル氏ノ論法ハ未ダ完全ナリトハスベカラザレ氏泰西ニ論法ノ起リシハ實ニ氏ノ効ニシテ又後世ノ論法モ大抵氏ヲ沿襲セルモノニテ氏ヨリ以後ニ至テ新ニ發明スル所モ格別之ナキナリ但合式推測式(カテゴリカル、シロヂズム)ニ加フルニ、約結(ハイポセチカル)離接(ジスジヨンクチーヴ)ノ兩推測式ヲ以テシ、三種ノ圖式(フヒギユール)ニ加フルニ、第四ノ圖式ヲ以テスルガ如ク僅々ノ一ニ過ギザルノミ、其他ノ一ハ大抵アリスト

トトル氏ノ定メシ所モ異ナラザルナリ然レバカシト氏ガ論法ハアリストトトル氏以後進歩モセズ、退歩モセズトイフモ、亦過言ニアラザルニ似タリ、夫ノリユウズ氏ノ言ノ如キハ、アリストトトル氏ノ効ヲ蔽遮スルニ近シト謂フベキナリ、
第八十二節
アリストトトル氏ノ書中ニテ形而上學ホ下體系ヲ成サシルモノハナシ、其中幾分カ主意ノ存スルナキニアラザレ氏、前後支離シテ甚ダ關係ナキ一頗ル多シ、是ヲ以テ今唯、其

西洋哲學叢書 卷之四
重要ナル數件ヲ舉ゲテ逐次之ヲ論ゼントス、
アリストートル氏カプレート氏ノ觀念論ヲ駁
撃スル論點ニ由テ二氏ノ哲學ノ異ナル所ヲ觀
ルベキナリ、プレート氏ハ觀念ヲ以テ實體トス
然レ氏氏ニアリテハ觀念ハ少シモ動作ナキモ
ノニテ、日常ノ下并ニ自然ノ作用ト相關セザル
ナリ、是ヲ以テプレート氏自ラハ如何様ニ思惟
セシカハ知ラザレ氏、觀念ニ相對スル所ノ現象
世界ハ觀念ヨリ生スト云フヲ説明スルハ極
メテ困難ナルヲニテ、實ニ現象世界ノ存在ハ觀

念論ニ由テ解釋シ難キナリ、是レアリストート
ル氏ノプレート氏ニ對シテ反對ノ地位ヲ取ル
所以ナリアリストートル氏オモヘラク、プレー
ト氏ハ觀念ノ客觀上實在スル所以ヲ充分ニ説
明セズ、實ニ氏ノ言ハ確當ナル證左アルモノニ
アラザルナリ、サレバ吾人ハ氏ノ觀念論ハ全ク
効ヲ奏セザルモノト斷言セザルヲ得ズ、何トナ
レバ、現象世界ノ存在ヲ解釋スル能ハザレバナ
リ、蓋シ觀念ハプレート氏ガ思惟セル如ク實物
ヲ離レテ自ラ實體ヲ有スルモノニアラザルナ

リ、然ルニブレート氏ハ科學ヲ構造スル爲メニ
普通性ヲ有スルモノヲ求メ、遂ニ感覺ノ如ク變
化セザル觀念ヲ以テ科學ノ基址トス、然レハ觀
念ト箇々ノ物トヲ分別スルハ極メテ難事ニ屬
シ、殆下二元論ヲ免ル、能ハザルナリ、此事々觀
念論ヲ唱フル者ノ說ヲ考フレバ、忽チ氷釋スル
ナリ、彼レガ觀念ト實物トヲ分別スルハ唯、ソレ
自身[○]ペル、セ[○]ナル語ヲ各種ノ名稱ニ加フルニ
止マル、例ヘバ、特殊ノモノハ人、馬、等ナレバ、ソレ
自身[○]ナル語ヲ加ヘ、人[○]ソレ[○]自身[○]馬[○]ソレ[○]自[○]

身等トイヒテ之ヲ觀念ナリトス、然レバ有限[○]フ
ナイトノ旨意ハ尚ホ存セリ、但、之ヲ恒久不變ト
スルノミ、此ニ由テ之ヲ觀レバ彼レハ可覺的[○]セ
ンシブルヲ不可覺的[○]ト、センシブルト見做シ、
之ニ不動性ヲ付スルナリ、即チ彼レニアリテハ
觀念ハ可覺的ノモノヲ不朽ニシ、ソレ[○]自[○]身[○]ニハ
感覺ニモ空間ニモ關セズシテ、一切ノ特殊ノモ
ノハ觀念中ニ於テ全ク其特殊ノ性質ヲ失ヒテ
普通のトナルモノトス、是レ夫ノ俗人ノ人様ノ
神ヲ信ズルニ比スベシ、何故ナレバ、自然ノ物ニ

付スルニ勢力ヲ以テシ、可覺的ヲ不可覺的ト見
做シテ之ヲ觀念ナリトスルハ、俗人ノ人ヲ神ニ
スルニ類スレバナリ、且ツ夫レ觀念ヲ以テ實體
ヲ有スルモノトスルギハ（既ニ第七十九節ニモ
述ベタルガ如ク）徒ニ物類ノ數ヲ増加スルノミ
ニテ、別ニ此ヨリ好結果ヲ生スルニモアラザル
ナリ、サレバ彼レハ何故ニ同一物ヲ二様ニ見做
スカ、何故ニ可覺的ノモノヲ復タ觀念中ニ於テ
認ムルヤ、此ノ如クニシテ同一物ヲ可覺的ト不
可覺的トニ分テ之ヲ觀ルハ全ク重複説トウト

口ヂ一ニシテ、毫モ現象世界ノ存在ヲ解釋スル
ノ助ヲナサミルナリ、又觀念ハ全ク静止スルモ
ノニテ其中ニ少シモ動作ヲ生スベキ本素ナキ
ガ故ニ現象世界ノ轉化ハ如何様ニシテ起ルカ
到底觀念論ニヨリテ解釋シ難キナリト、アリス
ト一トル氏ハ此ノ如キ意見ヲ述ベテ頗ルプレ
ート氏ヲ駁撃セリ、
第八十三節 アリスト一トル氏ハプレート氏
ノ觀念論ヲ駁撃スルニ當テ自家哲學ノ基址ヲ
得タリ、何ゾヤ、材料（マター）體形（フォーム）ノ二原儀

西洋哲學講義 卷之四 二十三

是レナリ、アリストートル氏ハ充分ニ其意ヲ述
ベント欲スル氏ニハ體形、材料、期成（エフェシエン
上、結局（フィナル）ノ四原因ヲ以テ形而上ノ原儀ト
ス、之ヲ例セバ、家ヲ造ル氏ニ用フル物質ハ材料
ニ屬シ、家ノ觀念ハ即チ體形ニ屬シ、家ヲ造ル人
ハ期成原因ニシテ成立スル所ノ家ハ結局原因
ナリ、然レ氏精密ニ之ヲ推究スレバコノ四原因
ハ減ジテ二原因トナルナリ、何故ナレバ、イハユ
ル期成原因ハ將成（ポテンシ）アリチトシテ現實（ア
クチュアリチ）ニナシ、材料ヲ體形ニナスモノナ

リ、然ルニ凡ソ將成ヲ現實ニナスニハ先ツ現實
ノ概念ヲ有セザルベカラズ、即チ現實ノ概念之
レガ動機トナラザルベカラズ、故ニ材料上ニ起
ル期成原因ハ畢竟體形ナリト謂フベシ、之ヲ例
セバ、人ハ人ノ期成原因トスベク、雕像ノ概念ハ
雕刻家ノ雕刻スル原因トスベク、健康ハ醫者ノ
腦中ニアリテ治療ニ先ツモノトスベシ、是ヲ以
テ健康ハ醫術ニシテ家ノ體形ハ工術ト謂フヲ
得ベキナリ、此ニ由テ之ヲ觀レバ期成原因ハ又
結局原因ニシテ相分チ難シ、何トナレバ、總テ行

動ハ結局ヲ預想スルニ由テ起レバナリ、之ヲ例
セバ、家ヲ造クル者ハ家ノ期成原因ナレ、匠、家ヲ
造ル者ノ期成原因ハ其達セント欲スル結局(即
チ家)ニアルナリ、是故ニ四原因ハ減シテ體形材
料ノ二原因トナルナリ、

アリストートル氏ノ說ニテハ材料ハ之ヲ抽象
シテ體形ヨリ分離スレバ、全ク形狀ナク、定體ナ
ク、區分ナク、凡ソ轉化ノ根底タル者ナリ、而シテ
既ニ轉化シタルモノトハ全ク同シカラズ、又如
何ナル體形ヲモ取ルベキモノナレ、匠、未ダ此ノ

定狀ヲ有セズ、即チ何物ニモ變化シ得ベキ性質
ハアレ、匠、現在ニアリテハ何物ニテモ之ナク、例
ヘバ、几案ノ木ヨリ成リ、雕像ノ大理石ヨリ成ル
ガ如ク、萬物ハ同一ノ本根ヨリ分生ス、此本根ヲ
材料トス、アリストートル氏ハ有在ハ有在ヨリ
生ズルニアラズ、又無有ヨリ生ズルニアラザレ
バ、萬物ハ如何様ニシテ此ノ如ク轉化シ來レル
カト云フ難問ヲ此ニ由テ解釋シタリト思惟セ
リ、何トナレバ、有在ハ決シテ純全ナル無有ヨリ
生ゼズ、但、現實ニ對シテ無有ナレ、匠、有在トナル

ベキ將成ノ性質ヲ有スルモノヨリ生ズルヲ得ルノミ然ルニ氏ノイハユル材料即チ此ノ如クナレバナリ、畢竟氏ノ說ニテハ凡ソ存在スル物ハ將成ノ轉化シテ現實ニナリタルナリ、乃チアリストトトル氏ハプレートト氏ノ如ク純全ナル無有ヲ以テ材料トセズ、然レモ又之ヲ現實ノ有在ト同一視セズシテ全ク體形ト相反スルモノトスルナリ、
材料ノ將成ト符合スルガ如ク體形モ現實ト符合ス、實ニ體形ハ區分ナク定體ナキ材料ヲ定體

アル現實ニ變ズルモノニテ、即チ特異ノ勢力ト謂フベク、完全ナル活動ト謂フベク、又萬物ノ精神ト謂フベキナリ、故ニアリストトトル氏ノイハユル體形ハ單ニ形狀(フーゾン)ヲ指スニアラズ之ヲ例セバ、腕ヨリ切りハナサレタル手ハ尚ホ手ノ形狀ヲ有スレモ、アリストトトル氏ハ之ヲ體形ヲ有スルモノトセズ、但、材料的ノ手トスルナリ、委シク之ヲ言ヘバ、現實ノ手即チ體形ヲ有スルノ手ハ、手ノ當ニ有スベキ官能ヲ有スルモノニ限ルナリ、又純正ノ體形ハ材料ヲ離レテ

存スルモノ、即チ有在ノ概念ニ過ギズ、然ルニ如何ナル有在モ、如何ナル特殊ノモノモ、皆材料ト體形トノ混合ナルヲ以テ純正ノ體形ハ定體アル有在中ニハ存セザルナリ、而シテ又此ニ由テ材料ハ萬物ヲシテ純正ノ體形ヲ有スルヲ得ザラシムルモノニテ、實ニ數多（プルラリチ）増加（ムルチプリシチ）并ニ偶然（コンチンゼンシ）ノ基址タルヲ知り、又材料ハ科學ニ付スルニ際限ヲ以テスルモノナルヲ知ルベシ、又其體形ノ材料ト體形トノ關係ハ一定ニ難キナリ、何トナ

レバ、同一物ニシテ材料トモナリ、體形トモナレバナリ、之ヲ例セバ、材木ハ出來上リタル家ニ對シテハ材料ナレバ、樹木ニ對シテハ體形トスベシ、又精神ハ身體ニ對シテハ體形ナレバ、體形ノ體形タル理性ニ對シテハ材料トスベキナリ、此ノ如クニシテ凡ソ存在スルモノハ相互ニ階級ヲ有シ、唯、其最下ナルモノハ全ク體形ヲ有セズシテ、第一材料ニ屬シ、最上ナルモノハ全ク材料ヲ離レテ、純正ナル體形ニ屬ス、而シテ兩者ノ間ニアルモノハ其對スル所ニ從テ或ハ體形トナ

リ或ハ材料トナリ常ニ材料ヨリ體形ニ變ズル
モノナリ是レ即チアリストトトル氏ノ天地萬
物論ノ基址ニシテ全ク分解法ヲ用ヒテ萬物ヲ
推究シ萬物ハ常ニ材料ヨリ體形ニ變ジ次第ニ
理想的ノ體形ヲ得ントスルモノナルヲ會得シ
タルナリ然レハ氏ハ材料ノ盡ク變ジテ體形ト
ナルヲハ實際達シ難キヲ又了知シ難キトトセ
以此ニ由テ之ヲ觀レバ氏ノ哲學モ其師ノ哲學
ト同ジク材料體形ノ二原儀ノ關係ヲ解釋セシ
トシテ未ダ充分ノ効ヲ奏セザルモノナリト謂

ハザルヲ得ズ、

第八十四節 材料ト體形トノ關係ハ論理上ヨ
リ之ヲ言ヘバ將成ト現實トノ關係ニ合當ス蓋
シ將成現實ノ兩語ハアリストトトル氏ノ始メ
テ用ヒシ所ニシテ氏ノ哲學ニアリテハ最モ特
異ナル所ナリ然レハ將成ノ變ジテ現實トナル
ノ旨意ヲ考フルニ全ク轉化ノ說ナリ然レハア
リストトトル氏ハプレートト氏ガエリア學派ノ
說ヲ沿襲セシガ如クヘラクリトス氏ノ說ヲ取
リテ大成セントシプレートト氏ヨリ幾分力進歩

シタル二元論ヲ立テタリ、何トナレバ、プレートト
氏ニアリテハ理想ト現象世界トハ全ク相反ス
レ氏、アリストートル氏ニアリテハ材料ハ體形
ニ變ズベキモノナレバナリ、
アリストートル氏ハ將成ノ現實ニ於ケルハ、猶
ホ粗糙ナル材料ノ落成シタル品物ニ於ケルガ
ゴトク、領有者ノ建造者ニ於ケルガゴトク、睡眠
者ノ醒覺者ニ於ケルガゴトシトス、尚ホ之ヲ例
セバ、種子ハ將成ノ樹木ニシテ、樹木ハ現實ノ種
子ナリ、又將成ノ哲學者ハ未ダ哲學上ノ研究ヲ

ナサズル所ノ哲學者ナリ、之ヲ要スルニ、行動發
達、并ニ變化ノ本素ヲ含有スルモノヲ將成トシ、
効成リテ達スベキ所ニ達シタル状態ヲ現實ト
ス、然ルニ又將成ト現實トノ關係ニ就テ之ヲ考
フル所ハアリストートル氏ノプレートト氏ニ異
ナル所ヲ知ルヲ得ベシ、何ゾヤ、是レ他ナシプレ
ート氏ニアリテハ觀念ハ静止シテ動力ザル有
在ニシテ行動及ビ轉化ニ反スルモノナレバア
リストートル氏ニアリテハ轉化ニヨリテ生ズ
ルモノナリ、然レ氏既ニ完結シタルモノニハア

ラズシテ、永世發生シテ止マザルモノナリ、
第八十五節、アリストール氏ハ種々ノ點ヨ
リ純全ナル精神（アブソリュート、スピリット）即チ行
動ノ本タルモノナカルベカラザルトヲ確定セ
ントシ、殊ニ之ヲ將成現實ノ點ヨリ辯明セリ、第
一現實ハ常ニ將成ニ先ツモノナリ、然ルニ將成
ハ之ヲ現實ニナスモノニ由テ現實ニナルト、猶
ホ教育ヲ受ケザル者ガ教育ヲ受ケタル者ニ由
テ教育ヲ受クルガゴトシ、然ルキハ行動ノ本タ
ル現實ナカルベカラズ、語ヲ換ヘテ之ヲ言ヘバ

凡ソ行動即チ轉化ハ之ガ本タル者アリテ其始
ヲナスニ外ナラス、故ニ純全ナル精神ノ存スル
アルヲ知ルナリ、第二、將成ト云フ概念ヨリ之ヲ
論ズルモ、永世存在スルモノハ將成ノ性質ヲ有
セズ、何故ナレバ將成ノモノハ或ハ有ルベク或
ハ無カルベシ、然ルニ或ハ無カルベキモノハ唯
一時存在スルモノニテ、永世存在スルモノニハ
アラス、是ヲ以テ永世存在スルモノハ將成ニア
ラスシテ現實ニアリ、若シ將成ガ現實ニ先ツモ
ノナラバ有在ノ發生スル所以ヲ解明スルヲ得

ザルベシ、第三、將成ハ反對ノ方ニ傾向スルヲ得、
例ヘバ善ヲナスノ力ヲ有スルモノハ惡ヲナス
ノ力モ兼有スルガ如シ、然ルニ現實ニハ斯様ニ
反對ノ方ニ傾向スルヲナキヲ以テ將成ニ優レ
ル、然レバ永世存在スルモノハ現實ナルベシト、
アリストートル氏ハ此ノ如ク種々ノ點ヨリ純
全ナル精神ノ存スルヲ并ニ其現實ナルヲ辯
明セリ、

アリストートル氏ノ倫理學

第八十六節　アリストートル氏オモヘラク、凡

ソ人ノ行爲ハ目途ヲ有スルモノナリ、然レモ能
ク之ヲ考フレバ、是等ノ目途ハ他ノ目途ノ津梁
タルニ過ギザルナリ、然ラバ最後最大ノ目途卽
チ純全ナル善ナカルベカラズ、吾人ハ之ヲ名ケ
テ快樂ハツピネストイフ、然レモ又快樂ナル名目
ニ就テ異議ナキニアラス、抑快樂トハ、何ゾヤ、蓋
シ快樂ハ人ノ固有ノ性ニ屬スルモノニテ、充分
満足セル感應ヲ來タヌ所以ナリ、然レモ感覺上
ノ快樂ハ人ノ固有スル所ニアラス、何トナレバ、
禽獸モ亦之ヲ有スレバナリ、但精神上ノ快樂ノ

ミ人ノ固有スル所トスベシ故ニ感覺上満足ヲ
感ズルヨリ得ル所ノ快樂ハ、禽獸ノ快樂ニ屬シ
人ニ必要ナルモノニアラス、人ノ當ニ取ルベキ
所ハ理性ノ作用ニヨリテ得ラルベキ精神上ノ
快樂ニアルナリト、乃チアリストトール氏ノ肉
樂ヲ取ラザルヲ知ルベキナリ、
次ニアリストトール氏ノイハユル徳ハ如何ナ
ルヲナルヤト問フニ、氏ハ子思ト同ジク中庸ヲ
以テ徳トス、其說ニ云ク凡ソ人ノ行爲ハ事業ヲ
成スモノナリ、然ルニ事業ハ行爲ノ過不及アル

ガ爲メニ完全ナルヲ能ハズ、但、行爲ノ能ク中庸
ヲ得ルモハ事業完全ニシテ、イハユル徳ニ合ス
ルナリト、亦是レ偏ナラズ倚ナラズノ意ニテ、東
賢西賢同一揆ト謂フベキナリ、
第八十七節 アリストトール氏ノ說ニテハ徳
モ快樂モ人々個々ノ得ベキ所ナラズ、人々個々
ハ唯、公衆ノ中ニ於テ善ニ達スベキ教育ヲ受ケ
法律ノ保護ヲ受ケ、他人ノ助力ヲ得、徳ヲ行フベ
キ便利ヲ得ルモノナリ、蓋シ人タルモノハ公衆
ト共ニスベキ先天ノ性質ヲ有セルヲ以テ政治

的。生。類。ホ。リ。チ。カ。ル。ビ。イ。ン。グ。ト。モ。稱。ス。ベ。シ。實。ニ
伴。侶。ヲ。離。レ。テ。生。存。ス。ル。コ。ト。ハ。決。シ。テ。人。ノ。能。ク。セ
ザ。ル。所。ナ。リ。果。シ。テ。然。ラ。バ。邦。國。ハ。各。自。ヨ。リ。モ。高
貴。ニ。家。族。ヨ。リ。モ。高。貴。ナ。リ。而。シ。テ。各。自。ハ。政。治。ヲ
受。ク。ベ。キ。部。分。ヲ。偶。占。ス。ル。ニ。過。ギ。ザ。ル。ナ。リ。ア。リ
ス。ト。ト。ル。氏。ノ。政。治。上。ノ。說。ハ。略。此。ノ。如。シ。又。氏
ハ。種。々。ノ。政。體。中。ニ。於。テ。立。憲。君。主。政。體。ト。貴。族。政
體。ト。ヲ。取。レ。リ。

余。ア。リ。ス。ト。ト。ル。氏。ヲ。講。シ。畢。リ。テ。ス。ト。ア。エ
ビ。キ。ユ。ロ。ス。懷。疑。並。ニ。新。ア。レ。ト。學。派。等。ヲ。講

西洋次等中世ノ煩瑣哲學(スコラスチシズム)ニ

論及シ、近世哲學ハ更ニ詳細ニ講セント思惟
セリ然ルニ、今回獨逸國ニ留學スベキノ命ヲ
蒙リタルヲ以テ止ムヲ得ズ、筆ヲ擱クコトナ
レリ、然レモ看官ノ或ハ西洋哲學ノ一斑ヲ知
ルノ便ヲ得サルヲ憾ミンコトヲ恐レ、友人三宅
雄次郎氏ニ中世ノ哲學マデノコトヲ記シ、古代
哲學ノ分ヲ完了センコトヲ依托セリ、近世哲學
ノ分ハ論ズベキ所極メテ多キヲ以テ他日余
自ラ講ズル所アランコトヲ欲ス、

弘通書肆

大坂

梅原龜七

同

岡島真七

西京

村上勘兵衛

同

大黒屋太郎右衛門

名護屋

片野東四郎

東京

北畠茂兵衛

同

稻田佐兵衛

同

丸家善七

同

吉川半七

同

文盛堂清造

和歌山十六年四月二十一日

